

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 15 日

1. 職名・氏名 准教授 永井 裕子

2. 学位 学位 修士、専門分野 社会福祉学、授与機関 日本福祉大学、
授与年月 2006年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1単位・2年次）、Ⅱ（1単位・3年次）、ソーシャルワーク実習（4単位・3年次）
②内容・ねらい 「相談援助実習・実習指導ガイドライン」に基づき、社会福祉士として必要な知識、技術、価値および関連知識を再確認し、ソーシャルワーク実習に耐え得る専門的な力量を備えること。実習計画書に基づき現場実習を行い、実習後は実習報告書の作成および実習報告会において報告を行う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実習関連科目 個別の実習課題に応じて個別指導および集団指導を行う。本人の学びの目標や課題および実習成果を言語化し、今後の自身のソーシャルワーク実践に展開できるよう添削、個別面談での対話を重視している。
①地域福祉論Ⅰ（2単位）2年次
②内容・ねらい（1）地域福祉の「基本的考え方」である理念や概念、定義等の意味を正確に理解、習得すること、（2）地域共生社会の実現に向けての「地域福祉推進システムの構造」を把握すること、（3）社会福祉・地域福祉の諸問題をその起源にさかのぼってその背景や発展過程を歴史的に探ることを通して、現在の現代、未来の地域福祉のあり方を考えること目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 地域福祉の歴史、政策、実践、理論等を解説したり、自分自身で自治体の地域福祉政策や実践を調べたり、映像教材や事例を用いたりしてディスカッションを行うことで理解を深めるよう工夫した。
①地域福祉論Ⅱ（2単位）2年次
②内容・ねらい （1）地域福祉の「基本的考え方」である理念や概念、定義等の意味を正確に理解、習得すること、（2）地域共生社会の実現に向けての「地域福祉推進システムの構造」を把握すること、（3）社会福祉・地域福祉の諸問題をその起源にさかのぼってその背景や発展過程を歴史的に探ることを通して、現在の現代、未来の地域福祉のあり方を考えること目的とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 地域福祉論Ⅰと同様に映像教材や事例を用いたりしてディスカッションを行うことで、理解を深めるよう工夫した。
①ソーシャルワーク基礎演習（2単位）2年次
②内容・ねらい プレゼンテーションやディスカッションの方法を学び、各自が興味を持つテーマについて、発表の技術や討論の方法などを実践的に学ぶ。 また、県社協との協働事業「フクチャレ」を通じて、福祉実践の現場や当事者、職員と関わることで、福祉の価値観を涵養することを目指した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

映像教材を活用したり、フィールドワークを行ったりすることで、現代の社会福祉の課題や支援のあり方を学んだ。また、フクチャレ報告会でそれぞれのフィールドワーク体験を発表することで、プレゼンテーション資料作成や発表の方法について学び、実践した。フィールドワーク4か所

① 現代福祉問題論（2単位）リレー講義 1年次

②内容・ねらい

新生児にとって全体像がまだわからない社会福祉学科における学習内容、とりわけ、2年次以降に学ぶ内容にかかわる話題を、学科のさまざまな科目の担当者の視点から、1回ごとに完結する形態で紹介する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

地域共生社会の理念が登場したわが国の社会背景をふまえ、包括的な支援体制や重層的支援体制整備事業の具体的な実践内容を演習を交えて講義した。

① 共生社会論（2単位）講義・フィールドワーク 4年次

② 内容・ねらい

社会福祉領域における地域共生社会を中核的な概念に据え、これまで授業で学んだ知識や技術、経験を活かし、学生が自ら課題を探り、その解決・緩和策を主体的に考えられる講義を展開する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

前期では地域共生社会への理解を深めるとともに、文献調査や現地視察等により地域課題を抽出し、中期ではフィールドワークを通じて地域の状況を体験する。そのうえで、後期には課題解決に向けた提案を行う。フィールドワーク4か所(うち担当1か所)

① 卒業研究（4単位）4年次

② 内容・ねらい

これまで学んできた社会福祉学の4年間のまとめとして、自ら選んだテーマに沿って自主的に研究を進め、より充実した卒業研究の作成を目指す。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

前期は文献の輪読を通じて、問いを立てる力を養った。また夏休み中は研究計画書を作成し、研究内容を具体化した。後期は論文執筆に向けたインタビューやフィールドワーク、文献研究を行い、論文を完成させるまで個別ならびにグループ指導を行った。

①大学院社会福祉援助特論（地域）（2単位）1年次

② 内容・ねらい

地域を基盤として活躍するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の重要性、必要性が増してきているが、従来のCSW機能だけでは対応できない問題も多く存在し、今後必要とされる新たな機能を持つCSWの特質について考えていく。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

文献の輪読を通じて、文章読解の方法、問いを立てる力を養った。また履修生同士のディスカッションを通じて、実践と理論の往復によって理解を深めた。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名 福井大学 （2単位）3年次

②内容・ねらい（自由記述）

- （1）地域福祉は、地域社会にどのようなアプローチをする福祉なのかを理解する。
- （2）多様な地域福祉の課題を取り上げ、これらにいかなる援助が行われているのかを知る。
- （3）地域で生活する要援護者の実情をとらえ、生活上の問題点を改善する視点を得る。
- （4）地域福祉に関連する公私の機関や組織を知り、さらに住民参加の必要性を理解する。

③本学における業務との関連性（自由記述）

地域福祉に関する研究の一環として、学生の基礎的知識に合わせた教育プログラムの検討を行うことができた。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)
②著書
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) 日本地域福祉学会第39回大会 2025年6月29日「メンタルヘルス・孤独感と社会関係資本の関係について」 塚本利幸,奥西栄介,坂口昌宏,相馬大祐,永井裕子
④その他の公表実績 敦賀市地域共生社会推進セミナー基調講演(2025年10月26日) 福井市中核市サミット第二分科会コーディネーター(2025年10月30日)
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))
学会での役職など(学会名) 日本地域福祉学会地方部会委員
学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所) 日本地域福祉学会東海北陸ブロック研究集会 実行副委員長(2025年12月6日、7日 於国際交流会館)
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加(参加研究会名、調査活動名(期間))
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績 文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究C)研究分担者 (研究課題名「過疎地の社会関係資本と「地域共生社会」地元住民と移住者の居住地区構築に向けて」研究代表者: 塚本利幸 研究分担者: 奥西栄介、坂口昌宏、相馬大祐
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） 福井市地域共生社会推進代表者会議委員長（2021 年度—現在にいたる） 福井市都市計画審議会委員（2021 年度—現在にいたる） 大野市都市計画審議会委員（2025 年度） 大野市地域福祉計画策定委員長（2025 年度） あわら市地域共生社会推進会議委員長（2024 年度—現在にいたる） あわら市地域福祉計画策定委員長（2025 年度） 鯖江市福祉のまちづくり審議会委員長（2023 年度—現在にいたる） 敦賀市重層的支援体制推進会議アドバイザー（2022 年度—現在にいたる） 坂井市地域福祉計画部会委員（2020 年度—現在にいたる） 永平寺町地域福祉計画策定委員長（2025 年度） 池田町地域福祉計画改定委員長（2025 年度）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） 福井市社会福祉協議会理事（2023 年 6 月—現在にいたる） 社会福祉法人足羽福祉会苦情解決第三者委員（2018 年 3 月—現在にいたる） 社会福祉法人和楽園評議員（2019 年度—現在にいたる） 有料老人ホームサンライフ小野谷顧問（2020 年 4 月—現在にいたる） 勝山市社会福祉協議会ボランティア運営委員会アドバイザー（2017 年度—現在にいたる） 福井県共同募金会配分委員（2025 年度—現在にいたる）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間） 株式会社 LAMP（事業内容：コワーキングスペース及びシェアオフィス）代表取締役
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） ・公開講座「アサーティブトレーニング体験講座：セルフケアのためのコミュニケーション」（zoom）講師：中野満知子氏（後期 1 回）
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） ・北陸高校開放講座（「ふだんのくらしのしあわせ」、北陸高校、2025 年 9 月 24 日）
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間） ・ 地域連携センター（学内委員）（2025 年度） ・ 看護福祉学部広報 WG 主担（学部内 WG）（2025 年度） ・ オープンキャンパス、大学案内、大学院 PR 担当（学科内委員）（2025 年度）
(3)学内行事への参加 （行事名、参加日時） ・ オープンキャンパス全体進行（2025 年 8 月 3 日）、模擬講義（2025 年 8 月 30 日） ・ 地域経済研究所第 5 回地域経済研究フォーラム報告者（2025 年 12 月 5 日）
(4)その他、自発的活動など （活動名、活動内容、活動期間）